



国立大学法人

東京学芸大学

# 日本語政策論

第12回 第3单元「複数性」から日本語教育の論点争点を考える3  
「『みなさんは、どうだい?』から、複言語主義とはどのような言語能力観なのかを捉える」

今日あると便利なもちもの

- ・ A4やノートなどの「書くことができる紙」
- ・ ちょっと太めのペン

画面越しにお互いの書いたものを見せ合います

# 相互に見る TEAMSのみんなの書き込みにレスポンスしよう



**みんな複数のことばを持っている  
ただし、すべてをバランスよく話せるわけではない**

## 「じっくり考える活動」の②に書き込みに着目しよう



### クラスに対する貢献の方法（5分）

★絵文字の反応をうまく使って感情のつながりを示す。  
もちろん、「コメント」で広げても構いません



**みんな複数のことばを持っている  
ただし、すべてをバランスよく話せるわけではない**

**…にもかかわらず、複数のことばの力に対して肯定的な側面**

自分の言葉の力に対してどの人も肯定的だったように思う。  
自分のことばの力に対して不安を感じているようには思いませんでした。

そう思える  
「複数言語に対する価値観」  
があるから肯定的になれる



**じゃあその  
「複数言語に対する価値観」  
ってどんなもの？**

**…そして、複数のことばの力に対して「不安」な側面**

現在は「自分のことばの力」に肯定的であっても、  
かつて不安を感じたことのある人が多かったと思う。

現在は肯定的であるという方が多いように感じました。堀さんから、自分は「何人」なのか「自分のことば」は何だろうか。などの疑問や不安を抱いていたけれど、周りの環境が変化していく中で自

自分の  
「複数言語に対する価値観」と  
周囲の  
「複数言語に対する価値観」の  
ズレからの不安もある

# 自己を 分析する

私たちはどんな「複数言語に対する価値観」を持っている？

## そもそも私たちは「単数言語話者」なのだろうか？ 自分たちの「隠れた言語の資源」を見つけよう

		時間				..... ➔
		生まれた時	幼児の頃	小学校の頃	中学校の頃	
移動のこと		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
言語	A語	○	○	○	○	
	B語		○	○	○	
	C語				○	
	・					
	・					
備考						
家族のこと						
学校のこと						
仕事のこと						



東京で生まれ東京に育った人は「共通語」話者なの？

共通語

首都圏方言（新東京方言）

彼氏

かれし

かれし

アクセントの  
平板化

ナレーター

ナレーター

ナレーター

熱くなる

あつくなる

あつくなる

雰囲気

ふんいき

ふいんき

撥音の  
イ音便化

否定形

できません

できません

山の手言葉

江戸下町言葉

多摩方言

# 自己を 分析する

私たちはどんな「複数言語に対する価値観」を持っている？

## そもそも私たちは「単数言語話者」なのだろうか？ 自分たちの「隠れた言語の資源」を見つけよう

言語	生まれた時	幼児の頃	小学校の頃	中学校の頃	.....
移動のこと					.....
A語					
B語		○	○	○	
C語				○	
・					
・					
・					
備考	家族のこと				
	学校のこと				
	仕事のこと				

ブレイクアウトルームで「隠れた言語の資源」  
についてお互いに紹介する

# 自己を 分析する

私たちはどんな「複数言語に対する価値観」を持っている？

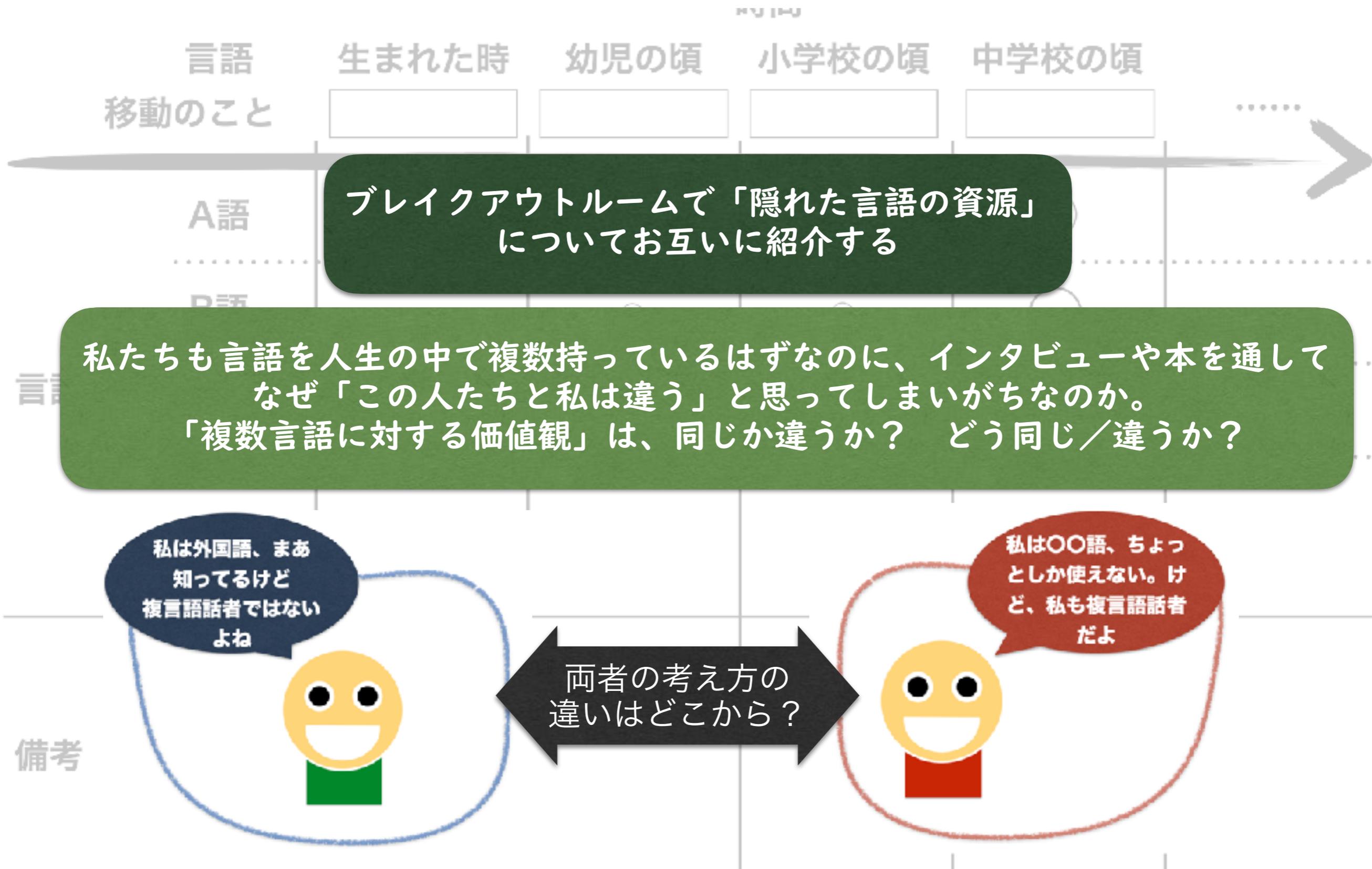
## そもそも私たちは「単数言語話者」なのだろうか？ 自分たちの「隠れた言語の資源」を見つけよう

言語	生まれた時	幼児の頃	小学校の頃	中学校の頃	.....
移動のこと					
A語	ブレイクアウトルームで「隠れた言語の資源」 についてお互いに紹介する				
B語					
言語	私たちも言語を人生の中で複数持っているはずなのに、インタビューや本を通して なぜ「この人たちと私は違う」と感じてしまいがちなのか。 「複数言語に対する価値観」は、同じか違うか？ どう同じ／違うか？				
・					
・					
備考	家族のこと				
	学校のこと				
	仕事のこと				

# 自己を 分析する

私たちはどんな「複数言語に対する価値観」を持っている？

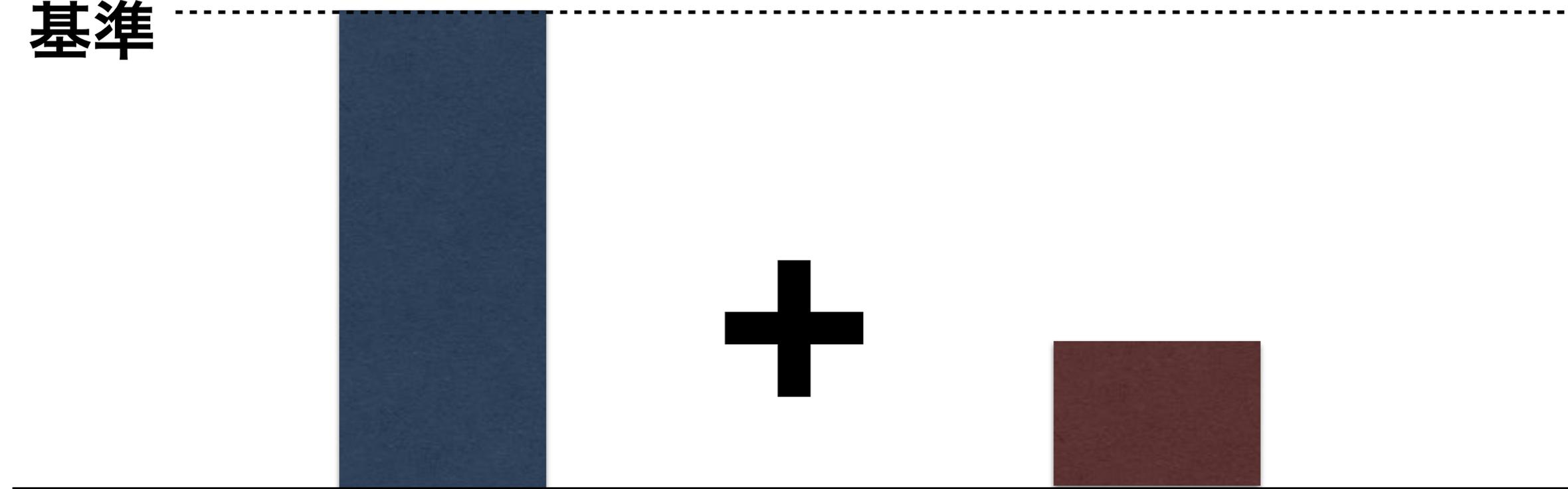
## そもそも私たちは「単数言語話者」なのだろうか？ 自分たちの「隠れた言語の資源」を見つけよう



「mono」という考え方

私たちは「単一」の言語体系であるべきだ！

基準



母語 (=国語)

パーフェクト

第二言語

母語ほどではない

(でも母語話者をめざしたい)

私たちの中には「基準語」という確固たる能力がある (もつべき)。

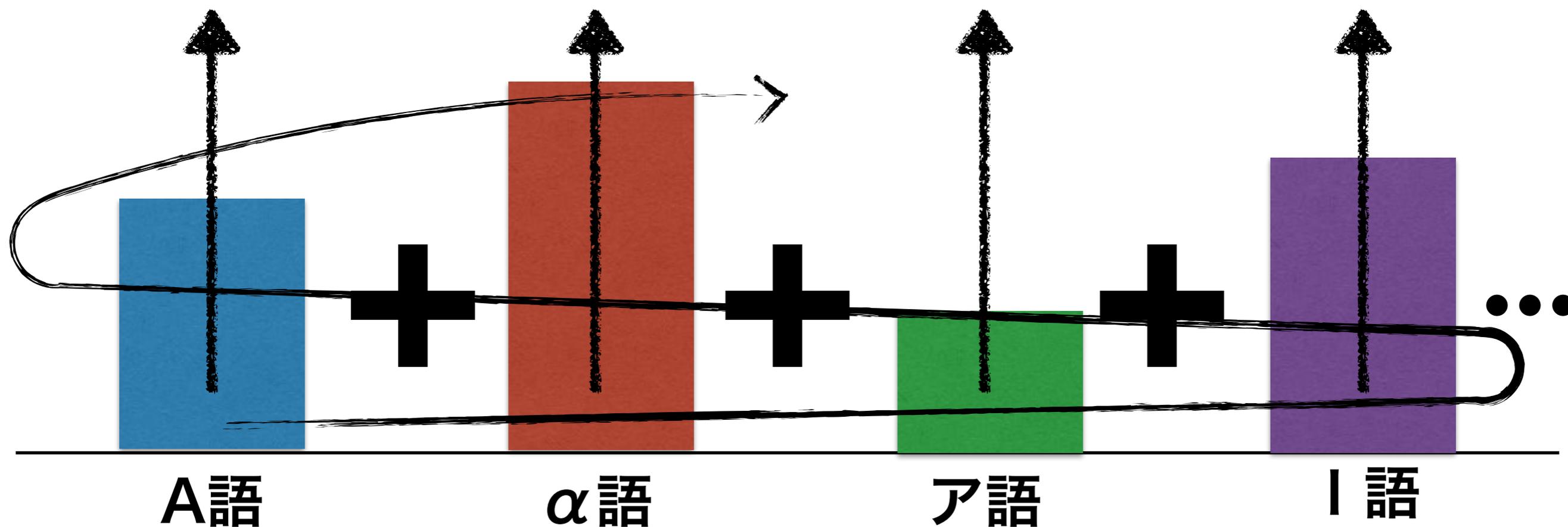
「基準語」を往々にして「母語」という。

それに「+α」で「第二の言語」「サブの言語」がある (もつと良い)

「Plural」という考え方

私たちの中にある「複数」の言語体系を積極的に持とうとするべきだ！

= 複言語主義



私たちの中にはいつも複数の言語を持てる可能性がある。

「言語の能力」に100%はなく、どの言葉もさらに成長可能性がある。それぞれの言語体系は、時に「母語」でもあるし、「母国語」かもしれないし。「外国語」かもしれない。ただし、「母語」は「絶対言語」ではない。

## 概念

# 「能力」としての複言語主義

**視点①** 私たちはそれぞれ、複数の言語を持ち、しかも複数の言語は互いに関連しあって補完的に存在していること。

偏 + 変 + 連

**視点②** 「理想的な母語話者（ネイティブ）」を育てるのではない！ 大切なのは、「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること。

**「ネイティブ」は神話だ！**

**視点③** 複言語であると同時に「複文化」。

自分の中の複数の「所属」「居場所」「アイデンティティ」の存在を認め、それを深められること。

# 「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること

「日本語能力試験」(2010年までのもの)

「ヨーロッパ言語共通参照枠」(2000年代から欧州評議会で発表)

1級	高度の文法・漢字(2,000字程度)・語彙(10,000語程度)を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力(日本語を900時間程度学習したレベル)
2級	やや高度の文法・漢字(1,000字程度)・語彙(6,000語程度)を習得し、一般的なことがらについて、会話ができ、読み書きできる能力(日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル)
3級	基本的な文法・漢字(300字程度)・語彙(1500語程度)を習得し、日常生活に役立つ会話ができて、簡単な文章が読み書きできる能力(日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)
4級	初歩的な文法・漢字(100字程度)・語彙(800語程度)を習得し、簡単な会話ができて、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力(日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル)

レベル群名	レベル	説明
C 熟達した言語使用者	C2	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる</li> <li>いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。</li> <li>自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる</li> </ul>
	C1	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。</li> <li>言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。</li> <li>社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉いができる。</li> <li>複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。</li> <li>その際、文を構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。</li> </ul>
B 自立した言語使用者	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。</li> <li>お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。</li> <li>かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。</li> </ul>
	B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</li> <li>その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。</li> <li>身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。</li> <li>経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。</li> </ul>
A 基礎段階の言語使用者	A2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。</li> <li>簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。</li> <li>自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。</li> </ul>
	A1	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。</li> <li>自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。</li> <li>もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。</li> </ul>

「どんな言語知識をもっているか？」基準

「言語を使用して何ができるか？」基準  
(行動目標基準 (Can do statements))

# 「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること

## 「日本語能力試験」の中の「言語能力観」はどう変わった？

旧試験 2010年まで

新試験 2010年から

級	認定基準
1	高度の文法・漢字(2,000字程度)・語彙(10,000語程度)を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力(日本語を900時間程度学習したレベル)
2	やや高度の文法・漢字(1,000字程度)・語彙(6,000語程度)を習得し、一般的なことからについて、会話ができ、読み書きできる能力(日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル)

レベル	認定の目安 各レベルの認定の目安を【読む】【聞く】という言語行動で表します。 それぞれのレベルには、これらの言語行動を実現するための言語知識が必要です。
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる <b>読む</b> ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 ・さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 <b>聞く</b> ・幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる <b>読む</b> ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。 ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 <b>聞く</b> ・日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。

N3【新設】 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる

- 読む** ・ 日常的话题について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。  
・ 新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。  
・ 日常的话题で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。
- 聞く** ・ 日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。

3	基本的な文法・漢字(300字程度)・語彙(1500語程度)を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力(日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)
4	初歩的な文法・漢字(100字程度)・語彙(800語程度)を習得し、簡単な会話ができ、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力(日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル)

N4	基本的な日本語を理解することができる <b>読む</b> ・ 基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。 <b>聞く</b> ・ 日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる <b>読む</b> ・ ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができる。 <b>聞く</b> ・ 教室や、身の回りなど、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。

よくなる↑

よくなる↑

## 概念

# 「能力」としての複言語主義

**視点①** 私たちはそれぞれ、複数の言語を持ち、しかも複数の言語は互いに関連しあって補完的に存在していること。

**偏** + **変** + **連**

**視点②** 「理想的な母語話者（ネイティブ）」を育てるのではない！ 大切なのは、「母語」「〇〇人」枠を超えて「社会に行動できる自立した言語使用者」になること。

**「ネイティブ」は神話だ！**

**視点③** 複言語であると同時に「複文化」。

自分の中の複数の「所属」「居場所」「アイデンティティ」の存在を認め、それを深められること。